

「異能交流ラボ キックオフイベント」の開催について

「異能交流ラボ」は、令和4年4月の奈良国立大学機構設立に合わせ設置された学生・生徒の自発的研究や異分野交流の拠点となるオープンイノベーションラボです。

令和4年6月30日（木）、法人本部棟1階のラボにおいて、学生25名、機構・大学関係者18名が参加して「異能交流ラボ キックオフイベント」が開催されました。

才脇直樹 奈良カレッジズ連携推進センター長（奈良女子大学教授）の挨拶からはじまり、梅田智広氏（奈良県立医科大学 MBT 研究所研究教授）による「先端技術を用いた地域創生と文化事業」をテーマとした、ウェアラブルセンサーを使った健康管理や家電製品を使った日常的な見守りを行うシステムについての事例紹介など、大変興味深い講演が行われました。講演の終わりに、梅田氏から学生に対し課題が出され、2～3人のグループごとに提案をまとめて1ヶ月後に発表することとなりました。

その後、山納洋氏（大阪ガスネットワーク株式会社 事業基盤部 都市魅力研究室長）により、梅田氏の講演について丁寧に読み解いたポイントの解説が行われ、最後に才脇センター長から全体のまとめの発言があり、「異能交流ラボ キックオフイベント」は終了しました。

イベント終了後も、梅田・山納氏と学生との活発な意見交換が行われ、両氏の期待に応える学生の意識の高さが覗えるすばらしいキックオフイベントとなりました。

